

【氏名】角田 梢

【所属機関】

広島大学大学院

【研究題目】

在外華人・華僑の寄付活動による教育支援

【研究の目的】

米国在住の華僑・華人(以下「在米華僑・華人」と表記)による寄付活動の歴史は古く、19世紀末まで遡ることができる。とりわけ、中国国内に学校、大学などを建設したり、学生や教員の海外留学のための奨学金を支給したり、彼らの寄付活動が中国の教育発展に果たした役割は歴史的にみても大きい。例えば、1871年、最初の米国への中国人留学生として知られる容闈が故郷の香山県(現:珠海市南屏鎮)に設立した甄賢学校は、在米華僑・華人の寄付活動により設立された最初の学校であったのである。また、在米華僑・華人は歴史的存在としては無論のこと、彼らの多くは留学出身者であることも大きな特徴である。在米華僑・華人が中国の教育支援に積極的に取り組んできたのはなぜか。彼らによる教育支援は、時代の変遷とともにどのように変化してきたのか。本研究の目的は、こうした在米華僑・華人の寄付活動を通じた教育支援の特質を解明することである。

【研究の内容・方法】

本研究の内容および方法は以下の5点に集約される。(1)中国の教育に対する積極的な寄付活動を行ってきた Ginglin Alumni Association、Give2Asia、Lingnan Foundation、New Path Foundation、The Zigen Fund、United Board for Christian Higher Education を訪問し、日本では入手困難な会計報告書、活動報告書および理事会名簿などの一次資料を収集し、関係者に対する英語および中国語による聞き取り調査を実施したこと。(2)在米華僑・華人研究の分野で先駆的な研究を行ってきた Larry Shinagawa 氏(メリーランド大学)、Gordon Chang 氏(スタンフォード大学)、Robert Daly 氏(メリーランド大学)、Bernard Wong(サンフランシスコ州立大学)氏を訪問したこと。(3)実践家の立場からアジア系アメリカ人の寄付活動に携わってきた Rosalyn Tonai 氏(National Japanese American Historical Society, Inc.)、Dien S. Yuen(Give2Asia)、および Barbara Harr(メリーランド大学)に対する聞き取り調査を行ったこと。(4)国際的なフィランソロピー研究を行う Council of Advancement and Support for Education(CASE)を訪れ、Christopher Thompson 氏に対する聞き取り調査を行ったこと。また、2008年6月にサンフランシスコにおいて開催された「International Fundraising」の国際会議に出席し、民間セクターからの資金調達に係わる各大学の専門家とのネットワークを強化したこと。(5)

本研究の成果に基づいて、2008年3月の Comparative and International Education Society 52nd Annual Conference および同6月の日本比較教育学会第44回大会において口頭発表を行ったこと。

【結論・考察】

分析の結果、在米華僑・華人の寄付活動は、教育重視の伝統に基づいて、個々の生徒・学生や教員に対する支援に重点が置かれている点が指摘できた。また、中国特有の「関係」を通じた彼らの寄付活動は、(1)各組織が寄付者との強固な信頼関係を構築し、(2)継続的な支援を招致するために有利に働いていることが明らかとなった。加えて、在米華僑・華人による寄付活動が個人的な特徴を有することは、儒教的な忠誠心や相互主義の思想を反映したものであること。また、小規模な運営体制は各組織の管理費を削減し、各種の支援プロジェクトを展開する事業費を拡大しうること。さらに、寄付活動の対象地域は在米華僑・華人の出身地のみならず、中国の貧困農村地域へと広範に拡大していることが指摘できた。

一方、在米華僑・華人の寄付活動におけるキリスト教の影響も看過できない事実である。実際、UBや Give2Asia などに代表されるキリスト系華僑・華人組織は、古くから居住国および祖国に対する教育支援に積極的に取り組んできたのである。また、在米華僑・華人を寄付活動へと突き動かした要因の一つとして、居住国における自身の成功を支えてくれた人々に対する「感謝の念」が指摘できた。現時点では推測の域を超えないが、在米華僑・華人による寄付活動は、儒教思想や教育重視の伝統といった東洋の伝統的価値観とキリスト教の精神やフィランソロピーの文化に代表されるような西洋の近代的特質を併せ持ったものと思われる。

末筆ながら、本研究の趣旨と内容にご理解いただき、援助をして頂いた貴財団に厚く御礼申し上げます。